

第9期定時株主総会 質疑応答要約

この質疑応答要約は、2020年3月30日（月）に開催した当社第9期定時株主総会において、出席者の皆様からいただいたご質問とその回答を要約したものです。

【Q1】 今年に入り、ボラティリティが高い相場が継続しています。このような相場が貴社に与える影響は、プラスとマイナスどちらでしょうか。

【A1】 （回答者：鬼頭）

株式取引、店頭デリバティブ取引ともに、ボラティリティの高い相場では取引量が増える傾向にあるため、基本的には当社子会社が展開する事業にとってプラスであると言えます。

ただし、店頭デリバティブ取引については、お客様の売りと買いの取引をマッチングし、マッチングができなかった差分の自己ポジションをリスクヘッジのためにカバー取引をしておりますので、急激な相場変動やお客様からご注文を多量にいただいた場合においても、このカバー取引を適切に行い、コストを最小化することが、収益性を維持するうえで重要となります。店頭FXにおける収益性改善に向けて、2017年からビッグデータ解析を用いたカバー取引の最適化を進めており、着実にその成果が表れています。ボラティリティが高い相場においても安定的に収益が得られるよう、引き続き、改善に取り組んでまいります。

【Q2】 （御社子会社の）GMOクリック証券が提供している取引ツールのチャート機能について、タブレットに対応していただきたいです。また、商品ラインナップ拡充の一環として、eワラント取引の提供をご検討いただきたいです。

【A2】 （回答者：鬼頭）

貴重なご意見として、今後の参考とさせていただきます。

【Q3】 第8期と第9期の株主総会招集通知を見比べたところ、他の取締役の方は株式を買い増していますが、鬼頭社長の保有株数は増えておりませんでした。株価の変動に関わらず、一定の株数を買い増していただけると個人投資家も安心すると思いますが、株式の買い増しに対する考えをお聞かせください。

【A3】 （回答者：鬼頭）

招集通知の株数には反映されておりましたが、持株会を通じて毎月株式を購入しており、一定程度積み立てたところで個人の口座に移管する予定であります。今後も、持株会を通じて定期

購入を継続してまいります。

【Q4】 上場以来、株価が長期にわたり低迷していますが、株価を上げるために検討している施策等がありましたら教えてください。

【A4】 (回答者：鬼頭)

株価は市場が判断するものですので、なかなか難しい問題ではありますが、私は当社株式がインデックスと比較してどのようなパフォーマンスを出しているのか、という観点で評価しており、最近では若干負けていると認識しています。当社株式の魅力を理解していただくためには、当社のビジネスモデルの根幹であり、主力商品である店頭FXにおいて、これからどのように収益を上げていくのかという点を、投資家の皆様にご理解いただくことが非常に重要であると考えております。

これまで、店頭FXの収益性改善に向けたビッグデータ解析やBtoB（法人向け取引）等の取り組みについては社外に公表せず水面下で進めてきましたが、現在は、開示したとしても競合他社に追随される心配がないレベルまで研究開発が進んでいます。今後は、この収益性改善の取り組みによって、将来どの程度の収益が見込めるのかというビジョン、成長のストーリーを投資家の皆様にわかりやすくお伝えしていきたいと思っております。

【Q5】 親子上場に対して強い懸念を持っています。新型コロナウイルスの感染拡大が株価にも大きく影響を与えていますが、仮に、子会社の株価が大きく下がった場合、親会社は企業価値を下回る価格で強制的に子会社を吸収することも可能であり、そのリスクを強く懸念しています。投資家が抱くそのようなリスクに対して、どのように考えているのかお聞かせください。

【A5】 (回答者：鬼頭)

ご質問は、GMOインターネットグループの資本政策にかかる内容となりますので、安田取締役より回答をいたします。

(回答者：安田)

GMOインターネット株式会社の取締役として、ご回答いたします。

資本市場において、親子上場に対して様々なご意見をいただいていることは十分認識しておりますが、GMOインターネットグループは、変化の速いインターネット産業においてスピード経営を実現させるためにグループ経営を行っております。スピード経営のためには、組織の権限を分散させてフラットな組織とする必要があるためです。

子会社の上場に関しましては、上場することでその会社がより成長するのであれば、GMOインターネットグループとしては応援したいという考えに基づき行っております。

現時点において、コロナショックの影響による株価下落を受けて子会社の株式を非公開化す

るといような議論は一切起きておりません。今後の資本政策につきましては、資本市場のご意見も踏まえながら慎重に考えてまいります。

【Q6】 (御社子会社の) GMO クリック証券においては、Adobe Flash (アドビ・フラッシュ) を多用していますが、Adobe Flash は情報セキュリティ上の脆弱性が確認されており、本年末にサービスの提供が終了する旨も告知されています。Adobe Flash を使用し続ける理由、セキュリティに対する考えについてお聞かせください。

【A6】 (回答者：鬼頭)
お客様の大事な資産をお預かりするうえで、情報セキュリティは最も重要なものであると考えております。テクニカルな部分については、CTO を務めている高島よりご説明させていただきます。

(回答者：高島)
Adobe Flash の脆弱性と、本年末に提供が終了することは認識しております。ご指摘のとおり、GMO クリック証券では Adobe Flash を多く使用しておりますので、本年末までにすべての画面を置き換えるべく開発を進めており、順次リリースを予定しております。GMO クリック証券のブラウザに Adobe Flash が多用されている理由は、Adobe Flash がインターネット業界で流行した 10 年ほど前に、ちょうど FX や証券のシステムを開発していたためです。お客様に操作性の良い画面を提供するべく、当時、Adobe Flash を使用することを決定いたしました。

情報セキュリティは何よりも重要なものであるという認識のもと、日々、インターネットのセキュリティに関する情報を収集し、問題や懸念があるものについては早急に対処しており、このような日々の地道な対応が強固なセキュリティの確立に繋がると考えております。今後も継続してセキュリティの強化に努めてまいります。

【Q7】 高島会長の創業時の志についてお聞かせください。
また、その創業の志に対して、現在の事業の状態に満足されておりますか。今後 10 年、20 年で実現したいこと、会社をどのように成長させていきたいのかについてお聞かせください。

【A7】 (回答者：高島)
一番安い料金で一番良いサービスを提供すれば、一番多くのお客様に受け入れられ、一番大きな会社になれると、そのように考えて、証券も FX も、その他の分野においても一番になろうと志して創業いたしました。

FX は現在の規模にまで大きく成長したものの、証券については、一番になるためには商品・サービスの充実が必要であることがわかりました。そのため、我々は強みである FX の収益力で全体を支えながら、証券のシェアを伸ばしつつ、CFD や外為オプション、直近では GMO コイ

ンで提供している仮想通貨取引等といった他の分野においても、良いサービスをより安い料金で提供することに努め、会社を成長させてきました。

創業の志に対して現状に満足しているかというご質問については、満足しているとは言えません。事業が急速に拡大しているときも、利益を大きく上げられたときも、ずっと満足はしていませんでした。そういう意味では、永久に満足することはないと思っています。

個人の思いとしては、外部要因に左右されることなく、長期的に継続できるビジネスモデルを作り上げたいと考えています。まだ事業を展開していない分野において新しい金融サービスを生み出し、良いサービスを世の中に提供することで会社を成長させていきたいという思いがありますので、新規ビジネスの展開ももちろん視野に入れていきます。しかし、新規ビジネスの起ち上げには、人材やシステム開発リソースに加え、分野によっては多くの資本が必要となり、新規参入のタイミングも非常に重要であるということをご理解いただければと思います。

以上